

# 主催者あいさつ

ご紹介頂きました野尻町長の長瀬  
でございます。

主催者の一人として、本日の小林  
市・野尻町合併協定調印式にあたり  
一言ごあいさつを申し上げたいと存  
じます。

はじめに、特別立会人としてご出  
席下さいました東国原宮崎県知事様

をはじめ県議会地元議員の先生方、  
また多くの関係者のご臨席を賜り、  
かくも盛大に調印式が執り行われる  
ことができましたこと、心より深く  
感謝を申し上げます。

先ほど、堀小林市長様からもごあ  
いさつが御座いましたように昨年十  
二月一日、小林市・野尻町合併協議  
会が発足し、極めて厳しい日程の中、  
両市町の合併協議会委員並びに議員  
の皆様には大変なお骨折りを頂き心  
よりお礼を申し上げます。

又、関係機関、とりわけ坂本合併  
支援室長様、後藤田西諸県農林振興

局長様には適宜ご指導ご支援を賜り  
感謝を申し上げます。

顧みますれば、平成十五年一月、  
西諸五市町村によります任意合併協  
議会が設置されましてから本日まで  
実に六年間、紆余曲折を経てようや  
くここまで辿り着くこと<sup>たど</sup>ができまし  
た。

今、私といたしましては、感無量  
の思いであります。

現在の野尻町は、昭和三十年二月

十一日に野尻村と紙屋村が合併して誕生しております。

その前年である昭和二十九年十二月野尻村臨時議会において廃置分合議案の審議の中で、後に初代野尻町長となられた相牟田文夫議員が「合併が本村民の福祉増進の為、将来百年の大計を樹立し得るものと信じます。」と述べられています。

今、正に、私も同じ思いを未来に馳せているところでもあります。

さて、ご承知のように、人口減少

社会の到来、少子高齢化、地方分権の進展、更には道州制への展望などが有るわけで御座いますが、加えて住民自治の成熟化、多様化する行政需要の高まりなどが御座います。

行政は、変革のうねりの中においても的確に対応することが求められており、西諸地域の更なる発展のため合併を果たしておくことは極めて有意義であり大きな一歩であるように考える次第であります。

私どものふるさと西諸地域は、太古の昔より霧島の恵みを受けながら

四季折々豊かな自然に彩られ、悠久の歴史の内に伝統、文化、産業を育んで参りました。

多くの先達が苦難を乗り越え、偉業を成し、今日の礎を築いておりますことはご案内のとおりであります。

私ども野尻町八、三〇〇人は、平成二十二年三月二十三日から小林市の一員として、基幹産業である農業をはじめとする活力ある地域産業の振興、また心身共に健やかで文化の香り漂う生活空間作り、又、安全安心で快適な都市創造など住民主体の高揚感溢れるまちづくりに邁進して

いく所存であります。

今後とも、ご臨席の皆様のご指導  
ご協力を切にお願い申し上げたいと  
存じます。

結びに、今、一年で最も寒い時期、  
にじゅうしせつき だいかん  
二十四節気の大寒を迎えました。

「冬来りなば春遠からじ」と申しま  
す。一条の光が徐徐に増し、やがて  
ぬる  
水温む春がやって参ります。

ご列席の皆様のご健勝と小林市の更なる発展をご祈念申し上げ、合併協定調印式にあたってのごあいさつとさせていただきます。

平成二十一年一月二十一日

野尻町長 長瀬道大